

9条投票！全員○

「発見！市民活動フェア」に参加して

栄 平瀬敬久

入西地域交流センターで3月11日に開催された「発見！市民活動フェア」に「九条の会さかど」の一員として参加しました。

とはいえ、前日の準備でも展示物のほとんどは石川さんや新井さん、小林さんが持ち寄り、私はそれらを掲示用のボードに貼ったり、机を並べる程度。当日も来場者への説明のほとんどは石川さん、徳升さんが行ない、私が説明する場面はあまりありませんでした。

それでも、掲示物には初めて見るものも多く、来場者への説明を石川さんや徳升さんの横で聞いたのには非常に勉強になりました。

来場者は掲示された写真を見て、ひととおりの説明を聞いた後、多くの方がボードに掲示した「憲法九条、あなたはどちら そのまま・かえたい」の○×投票に「○(=そのまま)」を記入していられました。



その写真のほとんどは毎年実施されている「戦跡めぐり」のものだったのですが、石川さんは、その写真の1枚1枚について丁寧に説明され、

来場者が「この場所はどこ？」「ここに写っているものは？」等と質問されても、全て即答でした。

過去の「戦跡めぐり」への非常に正確な記憶もさることながら、1枚1枚、非常に丁寧にわかりやすく、細かく説明される姿勢には感銘を受けました。

結局、石川さんは昼食の時間以外はほとんど休憩を取ることもなく、まる1日説明をされていました。その情熱は、やはり憲法9条を変えることは許されない、そして今の日本は戦争する国に向かっているということへの危機感の表れなのかとさえ思えました。もちろん

ん非常に真面目な石川さんの性格に起因する部分もあるかと思いますが。

来場者の中には「今の北朝鮮の状況を考えても、改憲すべきでは？」との意見を投げかける人もいましたが、最終的にこの○×投票は「そのまま」が47、「かえたい」は0となりました。

来年もまたこの活動に参加できればと思った今回の「発見！市民活動フェア」でした。

戦後の物資・食料難の時代

－生きるための戦争－

中富町 徳升悦子

終戦直後の我が家

1945年(昭和20年)3月10日の東京大空襲で焼け出された父と母の親戚がほうほうの体で“避難”してきた。

一時は我が家と合わせて3所帯12人が60平方メートル足らずの間取りの家ひしめきあって暮らした。父は、非常時とはいえ尋常でない人数に対応し、焼け出された父母の妹一家用に近くの貸家を借りてやり2所帯が移っていった。

父の力で住む家は確保したものの、食糧不足は深刻な時代、私もそうだが同年代のいとこたちは、ろくに食べられなかったのではないのだろうか。1年ほどで焼けた家の跡にバラックを建て、引っ越していった。

戦後の混乱する社会に巻き込まれ、不安に思っている私にとっては、戦争による思いがけない出会いとはいえ、いとこたちとの一年近く的生活は、何よりも空腹を満たしてくれた月日であったように思い返している。

戦争により、多くの国民が被った苦難が、私の身近にも起きていたことがあらためて甦る。

父特製のランドセル

戦後の新しい教育(教育基本法1947年3月施行)が始まった1947年(昭和22年4月)新1年生として板橋区立板橋小学校に入学した。

当然物資が何もない時代であったが、父が徴用され

九条の会さかど 12周年のつどい

日時 6月11日(日曜日)13時30分～16時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

内容 近隣の9条の会にも参加を呼びかけ意見交換し
「10区市民の会」への会としての参加を考える

ていた中島飛行機工場のジュラルミンのクズを集めて、ランドセルを作ってくれた。エンジ色に塗って仕上げた。世界にひとつの父特製ジュラルミン製のランドセル。1年生の私には、肩にずしりと少々重みのあるランドセルだった。

しかし、その数年前にはジュラルミン製の戦闘機で米軍と交戦し多くの若い兵士が死んでいったのだ。父はどんな思いでランドセルを作ってくれたのであろう。1899年(明治32年)生まれの父に、生前、父の生きた時代、生き様など聞いておきたかったという思いが湧くのである。

【投稿】平和と民主主義の危機に 市民と野党が立ち向う！

八幡 不破幸司

いま改憲勢力による「戦前回帰」の動きが、テンポを速めさまざまな領域で私たちの目に留まるようになってきた。まさに戦後、平和憲法を基軸につくり上げてきた非戦国家日本が音をたてて崩れ始めている。特定機密保護法、集団的自衛権行使容認閣議決定、安保関連法＝戦争法強行採決、南スーダンへの自衛隊駆け付け警護隊派遣、共謀罪立法化策動など、安倍自公政権による暴走政治が猛スピードで平和と民主主義に襲い掛かってきている。

こうした中、多くの識者はもとより、これまで「無関心」を装ってきた普通の市民からも不安と懸念の声が発せられ、「安保法制廃止・立憲主義回復」を求める市民の共同の運動が発展し始めている。この市民運動の発祥は、「戦争させない・9条こわすな『総がかり行動実行委員会』」であり、全国の都道府県組織が活動を強めている。

この埼玉でも、2015年以降200万人署名、1万人規模大集会、野党統一(参院選)を柱に取り組んできた。いま、次の衆院選に向けて県内の一人区＝15選挙区で4野党(民進・共産・社民・生活)統一候補をつくるために、その推進母体となる「市民の会」が13選挙区で設立され(2選挙区は準備会)、市民中心の新しい運動が築かれつつある。

地元埼玉10区では、2月18日に「市民の会」設立総会を480人で成功させ、さらに5月28日(日曜日)坂戸市にて「みんなで考えよう『今の政治どう思う?』・市民参加のシンポジウム」を1000人規模で計画している。

平和と民主主義、憲法9条を守ることをテーマに運動してきた私たちが「市民の新しい芽生え」とひとつになって行動を起こせば、安倍改憲政治を倒すチャンスが必ず生まれると思う。

- 日時 5月28日(日曜日)開場13時、開演13時30分
- 会場 坂戸市文化会館ホール
- 主催 10区市民の会
- 参加 500円
- 窓口 090-1815-6293(大山)

【投稿】坂戸で『ザ・思いやり』上映会！

鶴舞 高橋宣子

2年前、御殿場で開かれた日本平和大会に参加した時に、このドキュメンタリー映画『ザ・思いやり』を見ました。この映画を見て感動と驚きを感じ、坂戸でも上映会をしたいと思ってきました。その願いが実現できることになり、うれしく思っています。

知っているようで、実はよくわかっていない「思いやり予算」の正体を、コミカルに、そして、厳しく映し出している映画です。海外や日本各地でのインタビューを見ていると、本当にこのままで良いのか、更に要求されているのに…とってしまいます。

今回の上映会には、日本語ペラペラのバクレー監督もお見えになって、舞台挨拶を行ないます。私たちが声をあげ行動するためにも、ぜひ多くの皆さんに観ていただきたいと思っています。

【映画の内容】

一人のアメリカ人が、米軍への“オモイヤリヨサン”の疑問に挑む！

知ッテイマスカ？

- 日本の税金が在日米軍のために使われていることを！
- 在日米軍家族のための住宅、小・中学校、教会、銀行、ゴルフ場、マクドナルドなどの施設に税金が使われていることを！
- 電気、水道、ガス料金は使い放題、遊びでも有料道路料金がすべてタダだということ！
- 米兵による凶悪・暴行事件の賠償金にも使われていることを！
- 6兆円を超える私たちの税金が既に使われていることを！

日本の経済が困難な状況の中で、なぜ日本人がここまで米軍を思いやらねばならないのでしょうか？

米との条約においては一切義務付けられていない「思いやり予算」は、1978年から始まり、日本人の税金から在日米軍へ6兆円以上が投入されてきました。

米兵一人当たり年間1,500万円という膨大な額は、ほとんどが米軍人の贅沢な生活を支援するために使われているのです。

この映画では、「思いやり予算」の不条理さと矛盾を様々な視点から鋭く、そしてユーモアたっぷりに日本人に問いかけていきます。

- 日時 5月28日(日曜日)14時～、17時30分～
- 会場 坂戸市文化施設オルモ3階ホール
- 主催 原水爆禁止坂戸市協議会・鶴ヶ島市協議会
- 参加 800円(当日1,000円)、障害者・高校生500円
- 窓口 049-281-8001(土建：田辺)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

5月25日、6月22日、7月27日(第4木曜日10時～12時)
会場は、北坂戸駅東口の坂戸市文化施設オルモ1階。